

栽培漁業技術開発事業調査* (ハマフエフキ放流調査)

安井理奈

本県の重要魚種であるハマフエフキ資源の維持、増大を図るため、種苗生産から人工放流までの技術体系を確立する。また、天然資源への放流効果を検証して、放流方法の改善を図る。

結果は平成5年度栽培放流技術開発事業調査報告書(ハマフエフキ・タイワンガサミ)に記載しているので、ここでは要約のみを示す。

1. 平均尾叉長84~112mmの人工種苗を大宜味村塩屋湾内と国頭村辺土名漁港、本部町渡久地港、名護市許田港に計108,000尾放流した。
2. 許田港で5日後に再捕したところ、貝、カニ類などが胃内容物にみられた。
3. 辺土名漁港では潜水観察を行った。94年1月以降の観察で目視された放流魚は少なかった。

* 国庫補助事業